実績報告書

届出者	住所	大阪市北区茶屋町10番2号 茶屋町西再開発ビル(NU茶屋町)	氏名	茶屋町西再開発ﾋﾞﾙ区分所有者集会 会長　　福井　康樹
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者	
事業の概要		区分所有者集会として、ビルの管理、運営 地下2階　地上9階　主に物販 （地下1階一部飲食店・地上8・9階飲食店）		

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(　2017　)年度	前年度(　2020　)年度
温室効果ガス総排出量	2,985　t-CO_2	2,953　t-CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	3,059　t-CO_2	3,026　t-CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t-CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標 (2020　年度)	第1年度 (2018　年度)	第2年度 (2019　年度)	第3年度 (2020　年度)
選択	レ	削減率（排出量ベース）	3.1 %	1.1 %	%	%
		削減率（原単位ベース）	%	%	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.1 %	1.1 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　(　　)

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

夏季に於ける冷熱源機器の運転パターンの見直しを行って参りましたが、テナント入退出、早朝営業開始に伴いガス吸収式冷温水発生機の稼働時間が増加し結果、基準年度から1.1%の温室効果ガス削減となっています。

(2)推進体制

当ビルの管理運営を委託しております阪急阪神ビルマネジメント㈱は阪急阪神ホールディングス㈱のグループ会社であり環境対策及び温暖化防止に関しては、阪急阪神ホールディングス㈱の推進体制を主体とします。

実績報告書

届出者	住所	大阪府貝塚市港１６－１	氏名	チヨダウーテ株式会社 工場長　清水　秀幸
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者	
事業の概要		石膏ボード製造		

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2018　）年度
温室効果ガス総排出量	7,113　t -CO_2	7,196　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	7,604　t -CO_2	7,614　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	0.8 %	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	1.8 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（ 生産量 ）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

昨年に引き続きボイラーの定期点検及び燃焼室の掃除、蒸気コンプレッサーの安定稼働を行うことで温室効果ガスの排出量の抑制を図ることが出来たが、昨年より生産量が増えたことにより生産ラインでの都市ガスの使用量が増え、結果的に温室効果ガスの排出量が増えてしまった。

(2)推進体制

全社的に温暖化対策に取組むため、石膏ボートで使用している原紙を１００％再生紙を使用しています。
また、平成３２年度までに設備改善及び既設照明設備のＬＥＤ化を進め、ボイラーの定期点検・燃焼室の掃除を行うとともに、蒸気コンプレッサーの安定稼働を行い温室効果ガスの排出量削減に努めます。